

泡瀬通信施設（沖縄市、北中城村）

- 1 基地名：泡瀬通信施設
- 2 所在地：沖縄市字泡瀬・字高原・字比屋根・字与儀、北中城村字渡口
- 3 返還面積：2,506千㎡

4 主な沿革

- ・昭和20年：米軍用地として接收
- ・昭和40年：239千㎡が返還
- ・昭和41年：47千㎡が返還
- ・昭和43年：39千㎡が返還
- ・昭和45年：320千㎡が返還
- ・昭和51年：1,014千㎡が返還
- ・昭和52年：780千㎡が返還
- ・昭和58年：67千㎡が返還



5 接收の経緯

この地域は、沖縄市の東南方の泡瀬、高原、比屋根等と北中城村の東北端の渡口にまたがる地域で、戦前は泡瀬港を中心とした太平洋における海上交通の要所として賑わう製塩の産地としても知られていた。また、市街地の周辺は、サトウキビを主体とする農耕地として利用されていた。しかし、昭和20年、米軍の占領と同時に飛行場並びに海軍・空軍の通信施設として使用された。

6 返還の経緯

復帰前の昭和40年から数回の細切乐的な部分返還がされ、復帰後の昭和51年～58年までに大部分(1,861千㎡)が3回に分けて返還された。

7 現在の土地利用状況

返還跡地は、泡瀬地区土地区画整理事業や比屋根地区土地区画整理事業が実施され、国体の主会場となった県総合運動公園などの公共施設が建設されているほか、住宅地としても利用されている。

※泡瀬地区土地区画整理事業：施行年度(昭和51年～平成7年)

区域決定[告示日](昭和50年12月15日)

換地処分[公告日](昭和63年3月15日)

事業面積(77.2ha)

総事業費(3,633百万円)

施行者(県)

※比屋根地区土地区画整理事業：施行年度(昭和60年～平成19年)

区域決定[告示日](昭和59年12月25日)

換地処分[公告日](平成19年4月6日)

事業面積(87.3ha)

総事業費(10,981百万円)

施行者(組合)

返還後

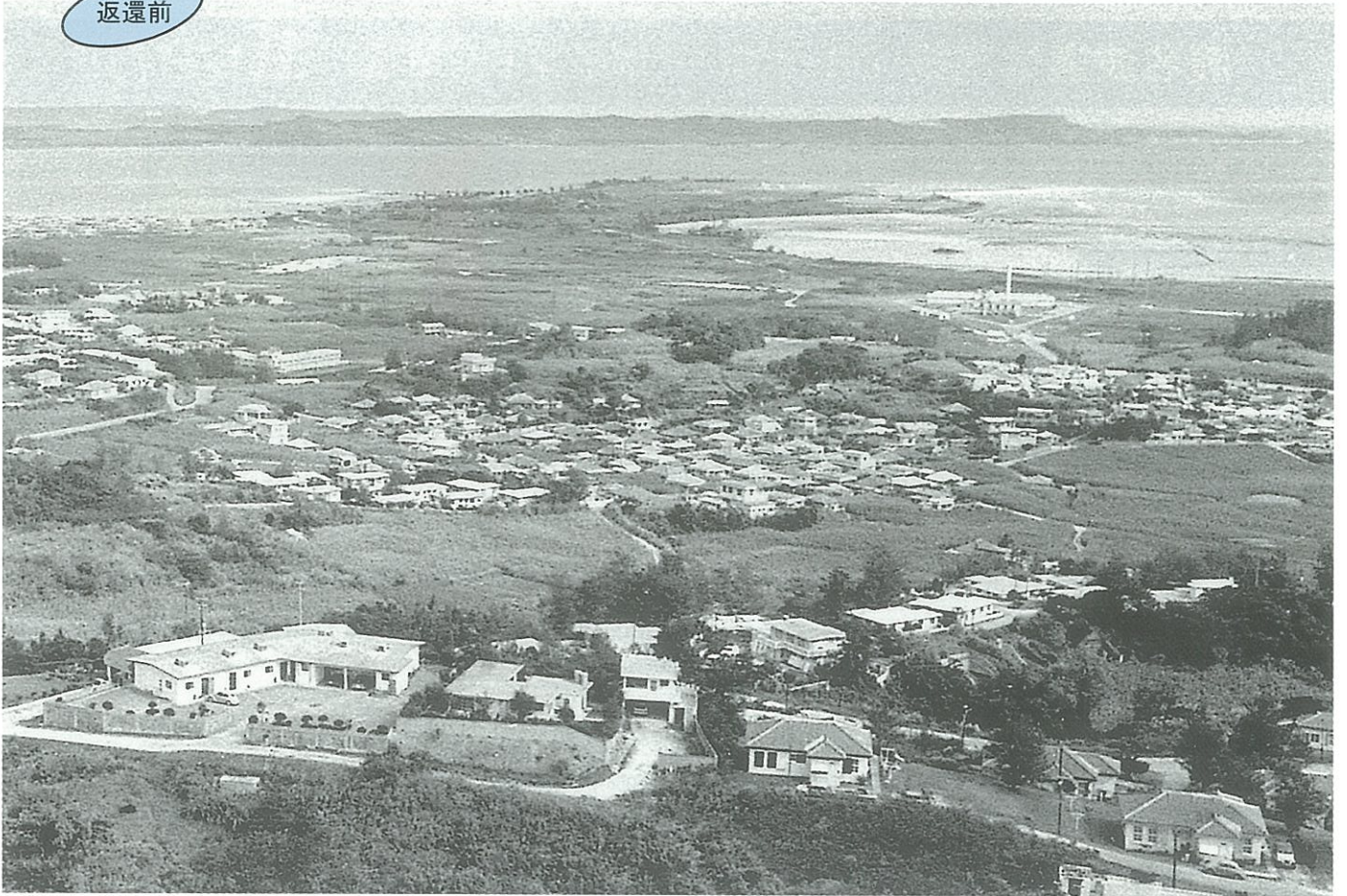


県営比屋根団地 平成21年3月



県総合運動公園 平成21年3月

返還前



昭和47年5月(写真提供:沖縄タイムス)

返還後



土地区画整理事業が実施され、県総合運動公園建設のほか、住宅地としても利用
平成20年5月(写真提供:沖縄タイムス)